

2025 年 6 月 6 日

The Emerging Markets Weekly

関税への懸念と米経済指標の下振れを受けて上昇

新興国市場:先週末 5 月 30 日のアジア時間は米国の関税への懸念が重しとなり概ね軟調。KRW の下落が目立った。欧米時間、トランプ米大統領が「中国が我々との合意に完全に違反」と SNS に投稿したことに加え、鉄鋼・アルミニウム関税を 6 月 4 日から 50%に引き上げると突如発表したことでリスクオフ地合いとなった。ZAR は前日比▲1.1%、BRL や MXN も値を下げた。週初 6 月 2 日アジア時間は中国が休場のなか狭いレンジでの推移。IDR が堅調となった。欧米時間、関税への懸念に加え、米 5 月 ISM 製造業景気指数が市場予想を下振れたことでドル売りが進み新興国通貨は買われた。MXN が前日比+1.2%、BRL や ZAR も値を伸ばした。3 日のアジア時間は米中貿易摩擦への懸念が重しとなり IDR が下げをけん引した。欧米時間、ユーロ圏 5 月消費者物価指数 (HICP) が市場予想を下振れ、米経済指標の良好な結果が東欧通貨を下押しした。中南米通貨はまちまち。BRL は値を伸ばした。4 日のアジア時間は大半が小幅な値動き。INR が下落する一方、KRW は韓国の李在明新大統領の就任宣誓が好感され前日比+1.1%上昇した。欧米時間、米経済指標が市場予想を下振れたことを背景に堅調。MXN が小幅に値を伸ばした。5 日アジア時間は前日の流れが続き概ね小幅に上昇。KRW は李在明新大統領の成長回復政策への期待から買われた。欧米時間、米経済指標の冴えない結果と ECB のタカ派な姿勢を背景に上昇するも、米中首脳電話会談をうけて米中通商協議進展期待が高まり上げ幅を縮小した。RUB は前日比+3.2%、BRL も値を伸ばした。

アジア:5 月 30 日発表のインド 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+7.4%と 10~12 月期から加速し、市場予想(同+6.8%)を上回った。31 日に公表された中国 5 月製造業購買担当者景気指数 (PMI) は 49.5 と前月から改善するも、景気拡大・縮小の分け目となる 50 を 2 か月連続で下回った。中国 5 月非製造業 PMI は 50.3 と 50 を上回るも市場予想は下振れた。6 月 2 日発表のインドネシア 5 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+1.6%と市場予想を下回った。韓国で 3 日に実施された大統領選挙では最大野党「共に民主党」から出馬した李在明氏が勝利し、4 日に韓国大統領に就任した。5 日発表のフィリピン 5 月 CPI は前年比+1.3%と市場予想通りとなった。2019 年 11 月以来の低水準となり、フィリピン中央銀行はより緩和的な金融政策が可能になると表明した。

中東欧・アフリカ:5 月 30 日発表のトルコ 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+2.0%と 10~12 月期から鈍化し、市場予想(同+2.3%)を下回った。6 月 3 日に公表されたトルコ 5 月 CPI は前年比+35.41%と市場予想を下振れた。

ラテンアメリカ:5 月 30 日公表のブラジル 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+2.9%と 10~12 月期から減速し市場予想(同+3.1%)も下回った。同日、米大手格付け会社はブラジルの長期債務の格付見通しを「ポジティブ」から「安定的」に引き下げた。

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(ブラジル)

米大手格付会社がブラジルの格付見通しを「安定的」に引き下げ

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

サマリー

米大手格付け会社は 5 月 30 日、ブラジル長期債務の格付見通しを「ポジティブ」から「安定的」に引き下げた。Rating Action を確認すると、格付見直し変更の理由に関しては「債務支払い能力の顕著な悪化や、歳出の硬直性への対応や財政政策の信頼性構築の進捗が予想より遅れていることを踏まえ、信用リスクの上振れ幅が縮小したことを反映している」と説明されている。今後を見通すと、同社による格付は他社対比でそもそも 1 ノッチ高いこと、想定されている財政のパスがやや甘めであることに鑑みれば、遠くない将来に格下げも排除されないだろう。

米大手格付会社がブラジルの格付見通しを「安定的」に引き下げ

米大手格付け会社の Moody's(*1)は 5 月 30 日、ブラジル長期債務の格付見通しを「ポジティブ」から「安定的」に引き下げた。格付自体は Ba1 (投資適格級まであと 1 ノッチ)で維持されている。過去の判断を振り返ると、過去の『通貨ニュース』(*2)でも記載した通り、同社は昨年 10 月に格付を 1 ノッチ引き上げていた経緯がある。

30 日に公表された Rating Action(*3)を確認すると、格付見直し変更の理由に関しては「債務支払い能力の顕著な悪化や、歳出の硬直性への対応や財政政策の信頼性構築の進捗が予想より遅れていることを踏まえ、信用リスクの上振れ幅が縮小したことを反映している」と説明されている。ブラジルの財政に纏わる話題を振り返ると、昨年 12 月には財政悪化懸念が極まり、BRL 安が急速に進み、ブラジル中央銀行(BCB)は過去最大規模の BRL 買い介入実施を迫られた経緯がある。その際に比べれば例えば基礎的財政収支などは改善してはいるものの(図表 1)、未だに財政政策に関する信頼感は失われたままだ。例えば直近でも、5 月 22 日に金融取引税(IOF)の課税強化方針が示されたものの、市場は大きな BRL 安で反応し、結局政権は方針を撤回した。増税に対しなぜ市場が嫌気したのかといえ、バラムキが目立つ歳出にメスを入れず、尚且つ歳入サイドでも所得税などに手を付けないまま、金融取引からの税収に頼ろうとしたことが理由だろう。やるべきことをしないままに、金融市場に介入しようとしたことが拙かったのだ。結局、ルラ大統領の極左思想は健在だ。

今後については、Rating Action を確認する限り、筆者は格上げよりも格下げの可能性のほうが高いと考える。まず第一に、他の 2 つの米大手格付会社による格付は Moody's よりも 1 ノッチ低い。第二に、Moody's が置いている財政パスの想定は、甘めに思える。例えば、Moody's の想定として、政府債務残高の比率(GDP 対比)は「今後 5 年間、88%前後で安定すると予想」と記載されている。しかしながら、国際通貨基金(IMF)による 4 月時点の想定に基づけば、100%を目指し上昇するパスが描かれている(図表 2)。来年に大統領選挙を控える中で、中長期の財政パスを予測することは困難なのは間違いないが、過去の推移に鑑みれば IMF の想定のほうが理に適っていると考えている。

以上を踏まえ、今後も財政に纏わる懸念がついて回ること、これに関連し格下げも十分にあり得ること、BCB が遠くない将来に利下げ局面に入るだろうことなどを総合的

に判断し、筆者は今後 1 年程度の BRL に対する弱気な見方を維持したい。

(*1) 日本では無登録格付

(*2) 詳細は、2024 年 10 月 2 日発行の通貨ニュース、『ブラジル：米大手格付け会社がブラジルの格付けを引き上げ』をご覧ください。

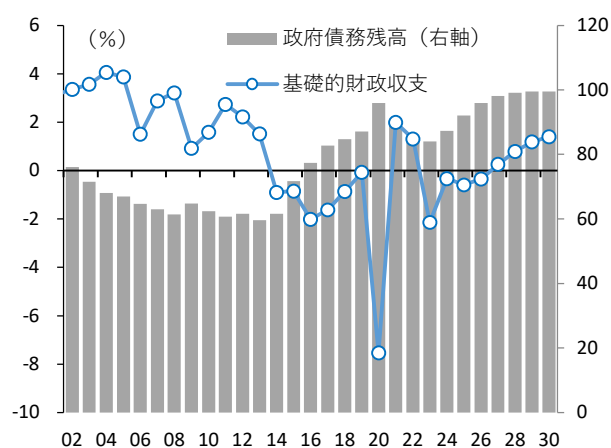
(*3) https://www.moodys.com/research/Moodys-Ratings-changes-Brazils-outlook-to-stable-from-positive-affirms-Rating-Action--PR_506308

図表 1: 基礎的財政収支 (GDP 対比、12 か月累積)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 基礎的財政収支と政府債務残高の実績と予測



出所: IMF、Macrobond、みずほ銀行 ※GDP 対比

市場概観(韓国)

大統領選挙は李在明氏が勝利、3 年ぶりの政権交代へ

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

韓国では 3 日、尹錫悦前大統領が 4 月に罷免されたことを受けて大統領選挙が実施された。この結果、最大野党「共に民主党」から出馬した李在明氏が勝利したことが報じられている。李在明氏の得票率は 49.42% で次点の与党「国民の力」の金文洙氏は 41.15% であった。投票率は 79.74% で、1997 年以来の高水準であったことから、韓国国民の関心も高かったと見受けられる。

李氏は選挙後の演説において、最大の使命は前政権の非常戒厳令に端を発する内乱を克服し、2 度と軍事クーデターが起きないようにすることと述べ、国民の統合は大統領の責任であると表明した。李氏は昨年末の尹前大統領による非常戒厳令を強く批判し、政権交代を強く訴えながら国民の支持を上げており、事前の調査からも度々優勢が報じられていた。一方の与党側は尹前大統領の罷免が決まって以降、大統領候補の選出をスムーズに実施することができず、保守系の少数政党との候補の 1 本化も頓挫したこともあり、終始後手を踏まざるを得ない状況が続いた。

もともと、選挙の結果を見る限り李氏の圧勝とも言い切れず、演説で述べた国民の統合は決して容易ではない印象を受ける。昨年末の戒厳令以降、世論が大きく分断した中で、同氏は今回の選挙戦では極端な発言は控え、中道派や無党派層への支持拡大を図ってきた。しかし、同氏は選挙活動中にも公職選挙法違反や市長時代の都市開発事業を巡る不正など複数の裁判を抱えていたこともあり、潔白性に疑問を持つ層も少なくない。国会では李氏を免責するための法案を提出する動きも着実に進めており、国会は「共に民主党」が過半数を占めるため、法案が通過する可能性は高い。韓国大統領は在任中、内乱・外患罪など一部例外を除いた「不訴追特権」を有するが、決して李氏のイメージがクリーンになる訳ではない。この点も国民の統一を進める課題となろう。

国内の動き以外にも、李在明大統領の外交姿勢は注目が集まる。過去日米に対しても強硬的な発言がクローズアップされた経緯もあるが、最大の事案はトランプ米政権に対する対応である。韓国も高い相互関税の発動が延期されている国の 1 つであるが、尹前大統領時代には北朝鮮との関係悪化、北朝鮮とロシアの接近もあった中で、安全保障も大きな交渉テーマとなっており、米国との関係性構築に関する論点は多岐にわたる。戒厳令の影響で本格的な交渉に本腰を入れられない状況は続いていたが、本交渉の行方はやや減速色が強まる韓国経済や為替をはじめ韓国金融市場の今後を占う材料となりそうだ。

市場概観(新興国)

新興国製造業 PMI は 8 か月ぶりに中立水準割れ

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数(PMI)によれば、5 月製造業 PMI は 49.6 と 4 月(49.8)から低下し、前月に続いて中立水準(=50)を割り込んだ。先進国(49.1→50.0)は購買品在庫を中心に上昇も、3 か月連続で中立水準を割り込んだ。片や、新興国(50.5→49.2)は新規受注や生産を中心に悪化し、8 か月ぶりに中立水準を割り込んだ(図表 1、2)。一方、グローバル非製造業 PMI(50.9→52.0)は上昇。内訳を確認すると、先進国(50.3→51.9)、新興国(52.2→52.3)と総じて軟調だった。

これらを合わせたコンポジット PMI は 51.2 と前月(50.8)から上昇し、28 か月連続で中立水準超えを維持。世界の GDP 成長率は 2024 年 10～12 月期に+3.36%(前期比年率)と前四半期から伸びが僅かに加速(図表 3)。PMI の推移を確認する限り、1～3 月期および 4～5 月は落ち込みを見せているようだ。

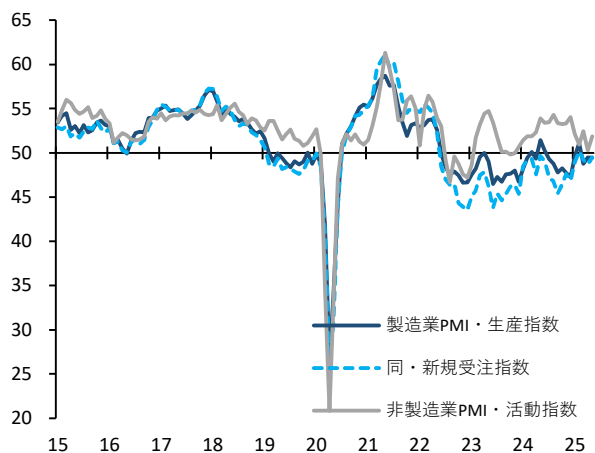
製造業 PMI に関し、グローバルな金融政策動向を占う上で重要な、価格関連の指数を確認したい。仕入れ価格・出荷価格は、5 月に揃って低下した(図表 4)。既報の通り 4 月からは一部相互関税が開始されているが、PMI の指数を確認する限り、川上部門において顕著な物価上昇は見られない。関税賦課に関して現時点では、少なくとも米国以外においてはデフインフレ的な側面が大きそうだ。関税にまつわる要素に加えて、資源価格が低位安定していることも、価格関連指数の低下に相当に寄与している可能性が高い。

製造業 PMI の構成指数別では、生産・新規受注の 2 項目が PMI の低下に寄与した。生産指数は新興国主導で悪化し、5 か月ぶりに中立水準を割り込んだ(図表 5)。加えて、新規受注も新興国主導で悪化し、前月に続いて中立水準割れを記録(図表 6)。他方、雇用は先進国主導で上昇も、10 か月連続で中立水準割れを記録(図表 7)。また、購買品在庫は先進国主導で上昇し、15 か月ぶりに中立水準を超えた(図表 8)。ただ、これは米国(48.4→57.1)によるかく乱があまりに大きいため、割り引いて考えることが必要だ。加えて、入荷遅延(逆インデックス)は先進国主導で低下し、12 か月連続で中立水準を割り込んでいる。新規(輸出)受注が軟調である点も踏まえて考えれば、引き続きサプライチェーンの混乱が反映されているのだろう。

個別の新興国では、中国製造業 PMI の軟調さに着目したい。5 月分の結果は 48.3 となり、市場予想の 50.7 および 4 月分の 50.4 を大きく下回った。実に 2022 年 9 月以来の低水準であり、中立水準割れも 8 か月ぶりだ。しかしながら、先んじて公表された国家統計局版の PMI は 4 月からの改善を示していた。この点、国家統計局版は調査実施期間が遅いので、米中貿易摩擦をより織り込んだ可能性が指摘される。加えて、S&P Global(&財新)版は中小企業を多くカバーしていること、より輸出動向にビビッドに反映しやすいことなども影響している可能性が高い。単月のデータでは判断できないため、より多くのデータを集める必要があろう。

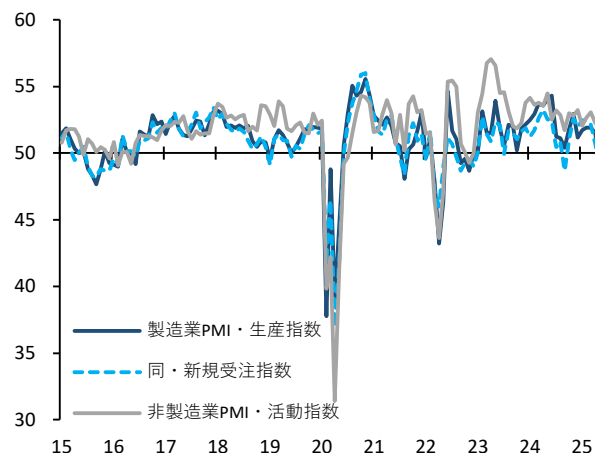
(注)各国・地域別の PMI のグラフについては、6 月 6 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 先進国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 新興国



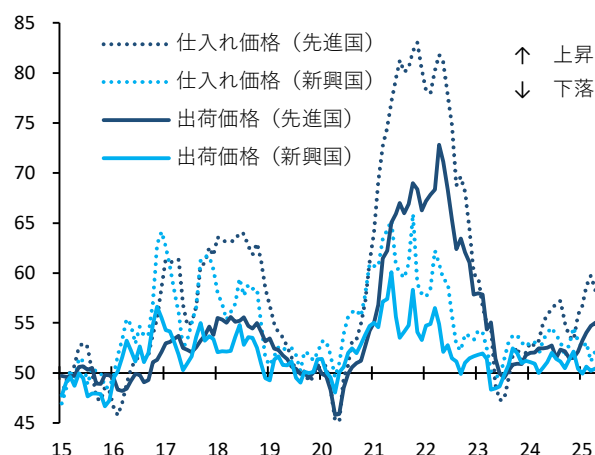
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



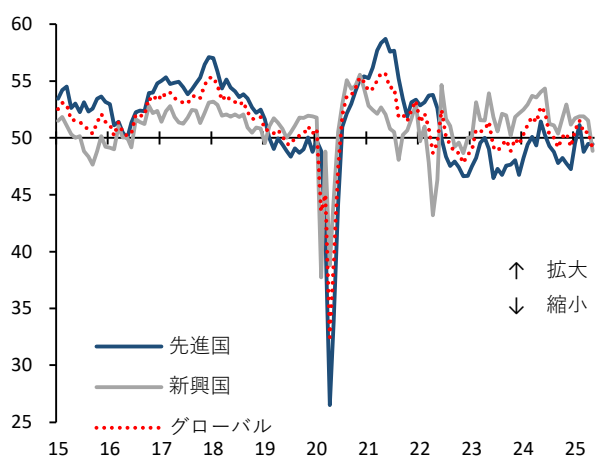
出所: S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI・価格指数



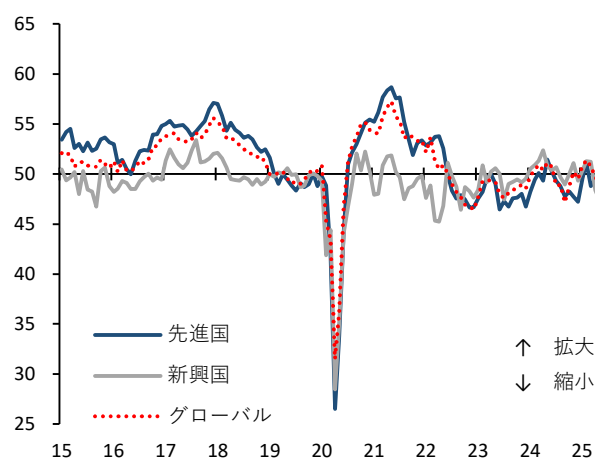
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI・生産指数



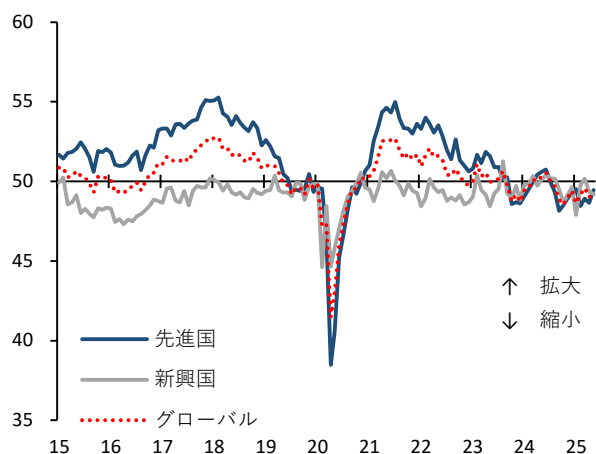
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6: 製造業 PMI・新規受注指数



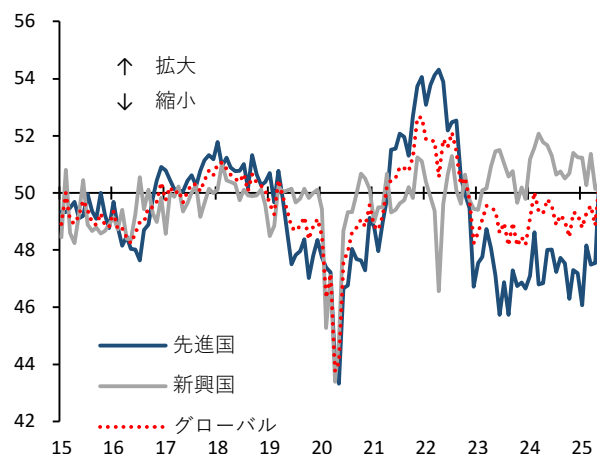
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・雇用指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

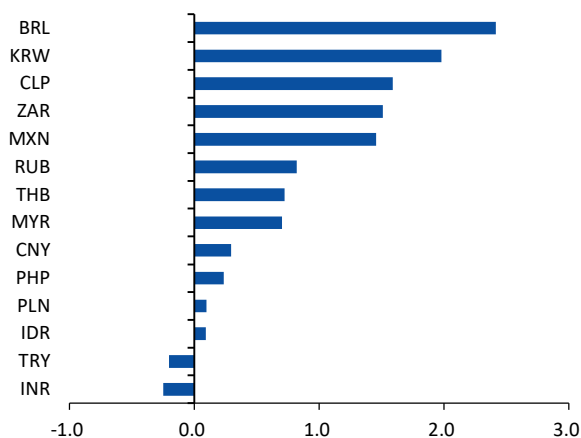
図表 8: 製造業 PMI・購買品在庫指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

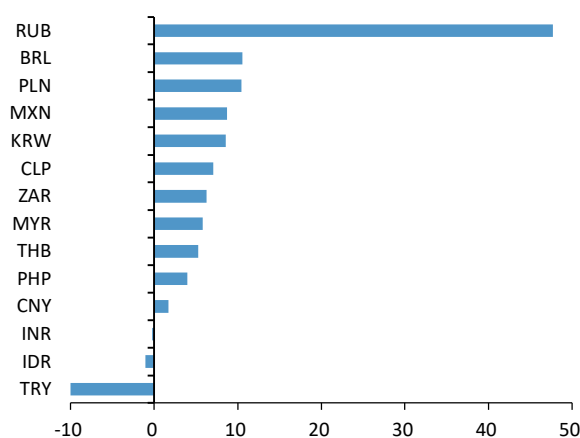
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



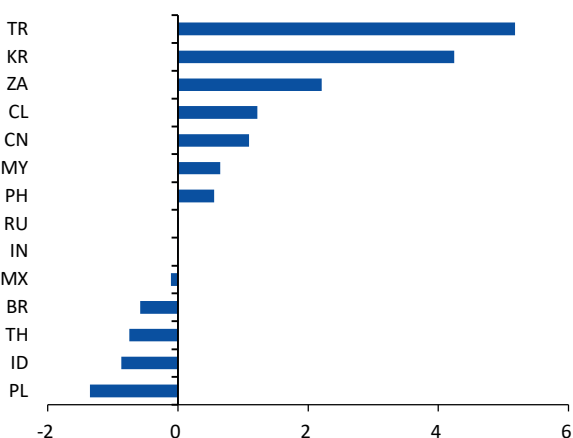
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



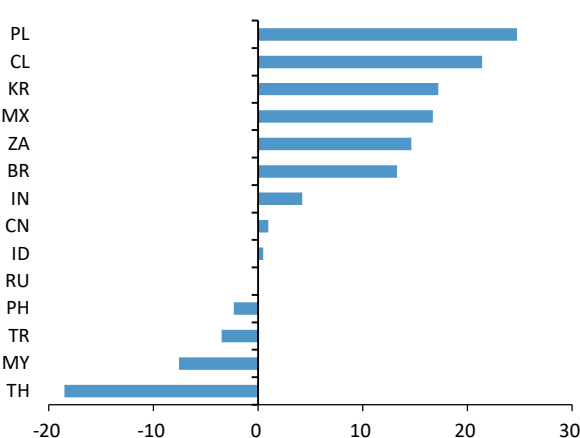
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



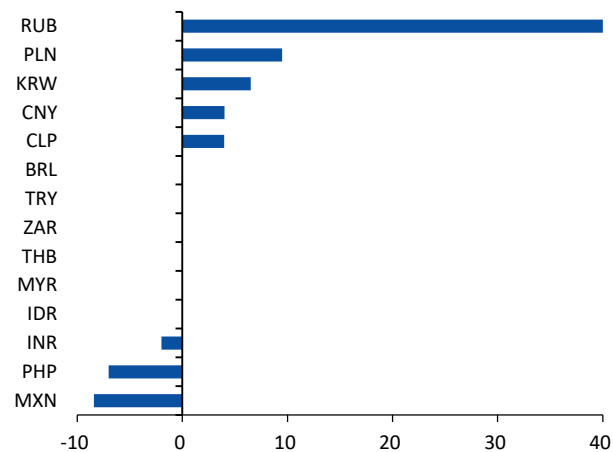
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

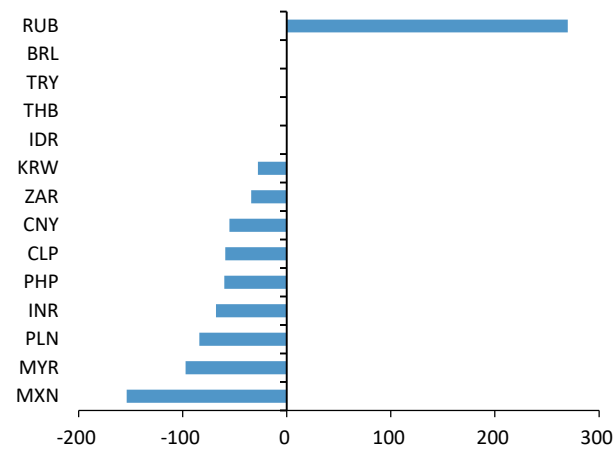
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

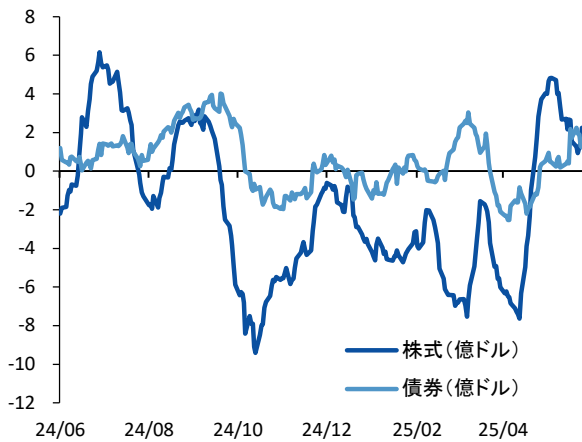


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

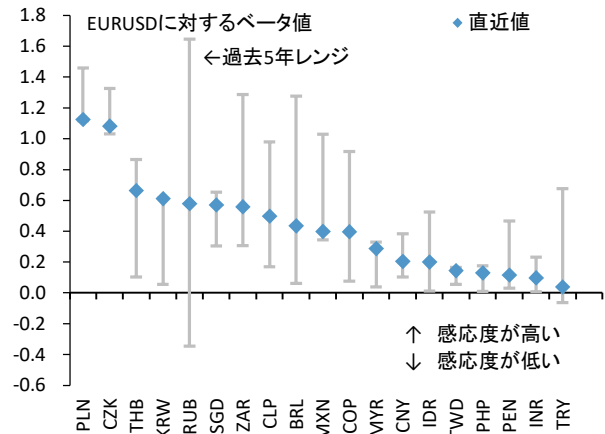
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



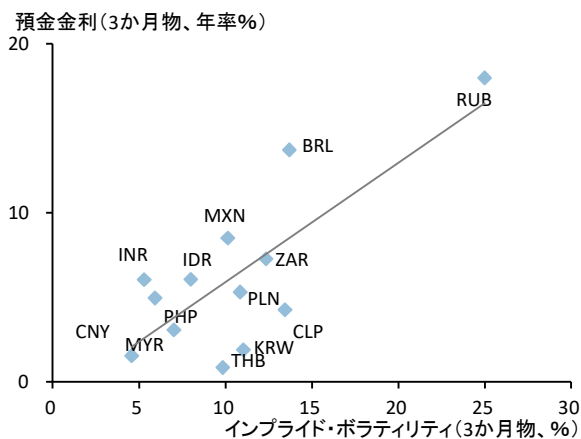
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



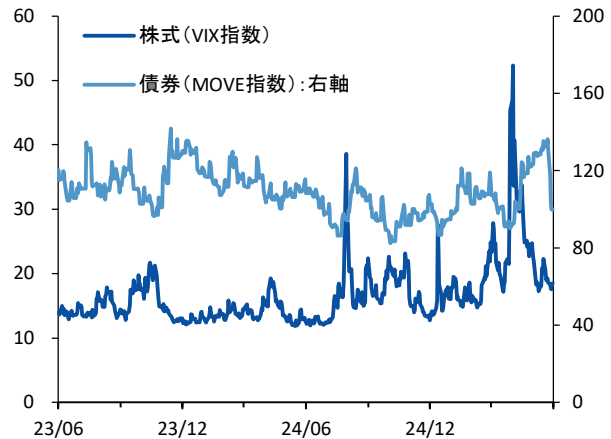
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



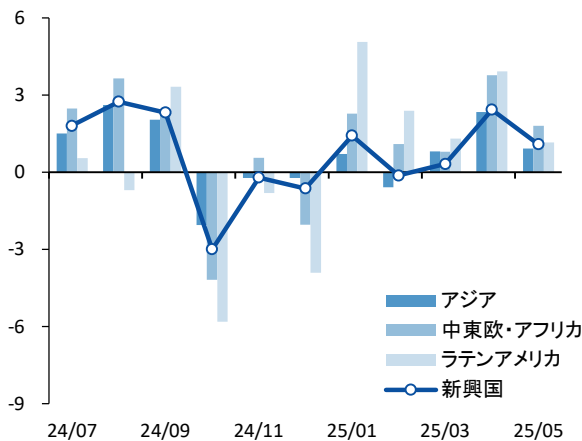
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



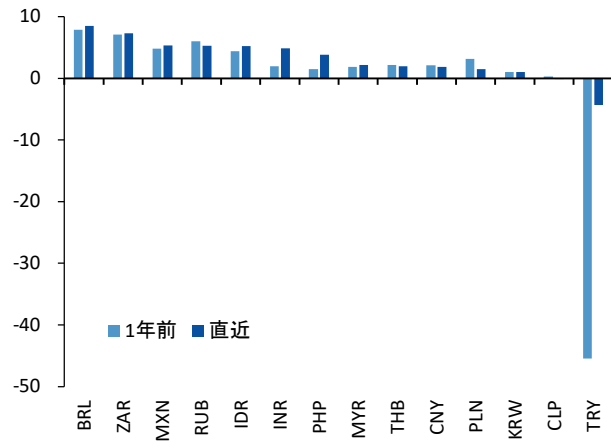
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月2日 (月)	インドネシア	貿易収支	\$2800m	\$159m	\$4329m	\$4327m
2日 (月)	インドネシア	CPI(前年比)	1.9%	1.6%	2.0%	--
2日 (火)	シンガポール	購買部景気指数	--	49.9	49.8	--
2日 (火)	中国	Caixin中国製造業PMI	50.7	48.3	50.4	--
4日 (水)	韓国	CPI(前年比)	2.1%	1.9%	2.1%	--
5日 (木)	韓国	GDP(前年比)	-0.1%	0.0%	-0.1%	--
5日 (木)	韓国	GDP(季調済/前期比)	-0.2%	-0.2%	-0.2%	--
5日 (木)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	1.3%	1.3%	1.4%	--
5日 (木)	中国	Caixin中国PMIサービス業	51.0	51.1	50.7	--
5日 (木)	シンガポール	小売売上高(前年比)	1.7%	0.3%	1.1%	--
5日 (木)	台湾	CPI(前年比)	1.8%	1.6%	2.0%	--
6日 (金)	タイ	CPI(前年比)	-0.8%	--	-0.2%	--
6日 (金)	インド	RBI政策金利	5.75%	--	6.00%	--
9日 (月)	中国	PPI(前年比)	--	--	-2.7%	--
9日 (月)	中国	CPI(前年比)	--	--	-0.1%	--
9日 (月)	台湾	貿易収支	--	--	\$7.21b	--
9日 (月)	中国	貿易収支	--	--	\$96.18b	--
10日 (火)	韓国	国際収支・経常収支	--	--	\$9144.6m	--
12日 (木)	インド	CPI(前年比)	--	--	3.2%	--
13日 (金)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	3.2%	--
13-16日	インド	輸出(前年比)	--	--	9.0%	--
13-16日	インド	輸入(前年比)	--	--	19.1%	--
中東欧・アフリカ						
6月3日 (火)	トルコ	CPI(前年比)	36.0%	35.4%	37.9%	--
3日 (火)	トルコ	PPI 前年比	--	23.1%	22.5%	--
3日 (火)	南ア	GDP(前年比)	0.7%	0.8%	0.9%	--
4日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	2.9%	1.9%	2.2%	--
5日 (木)	南ア	経常収支(対GDP比)	-0.7%	-0.5%	-0.4%	--
6日 (金)	ロシア	主要金利	20.00%	--	21.00%	--
10日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	--	--	-0.8%	--
11日 (水)	ロシア	CPI(前年比)	--	--	10.2%	--
12日 (木)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	--	2.5%	--
ラテンアメリカ						
6月2日 (月)	メキシコ	送金総額	\$5170.0m	\$4761.2m	\$5150.3m	--
3日 (火)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	0.4%	-0.3%	3.1%	--
4日 (水)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	-0.5%	-0.2%	-7.8%	--
5日 (木)	ブラジル	貿易収支(月次)	\$8300m	\$7239m	\$8153m	--
9日 (月)	メキシコ	CPI(前年比)	--	--	3.9%	--
10日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	--	--	5.5%	--
10-17日	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	--	2.4%	--
11日 (水)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	--	--	1.9%	--
12日 (木)	ブラジル	小売売上高(前年比)	--	--	-1.0%	--

注: 2025 年 6 月 6 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2025年 1～5月（実績）	SPOT	2025年 6月	9月	12月	2026年 3月	6月
対ドル								
エマー・ジグアジア								
中国人民元	(CNY)	7.1679 ~ 7.3512	7.1777	7.18	7.23	7.12	7.14	7.11
香港ドル	(HKD)	7.7500 ~ 7.8445	7.8462	7.84	7.83	7.81	7.80	7.80
インドルピー	(INR)	83.764 ~ 87.950	85.796	85.2	85.5	86.2	85.2	84.3
インドネシアルピア	(IDR)	16130 ~ 17224	16284	16400	16300	16500	16250	16000
韓国ウォン	(KRW)	1359.29 ~ 1487.45	1355.54	1400	1380	1360	1340	1320
マレーシアリング	(MYR)	4.1873 ~ 4.5185	4.2270	4.27	4.18	4.26	4.14	4.07
フィリピンペソ	(PHP)	55.158 ~ 58.715	55.619	55.8	55.4	56.1	55.2	54.4
シンガポールドル	(SGD)	1.2802 ~ 1.3751	1.2860	1.30	1.32	1.33	1.32	1.30
台湾ドル	(TWD)	29.458 ~ 33.280	29.937	30.5	31.0	30.7	30.3	30.0
タイバーツ	(THB)	32.37 ~ 34.98	32.63	33.3	32.6	33.4	32.8	32.5
ベトナムドン	(VND)	25038 ~ 26125	26081	26200	26100	26200	26100	25800
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	76.8453 ~ 114.7788	74.8425	80.0	82.0	84.0	88.0	92.0
南アフリカランド	(ZAR)	17.7565 ~ 19.9328	17.7455	17.6	17.4	17.8	18.0	18.2
トルコリラ	(TRY)	35.2419 ~ 41.2972	39.3089	39.5	40.5	41.0	42.0	43.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	5.5827 ~ 6.2270	5.5878	5.85	5.80	5.90	5.95	6.00
メキシコペソ	(MXN)	19.1831 ~ 21.2932	19.1607	19.7	20.0	20.2	19.8	19.6
対円								
エマー・ジグアジア								
中国人民元	(CNY)	19.145 ~ 21.666	20.012	20.19	20.19	20.37	20.03	19.83
香港ドル	(HKD)	18.031 ~ 20.403	18.291	18.49	18.65	18.57	18.33	18.08
インドルピー	(INR)	1.644 ~ 1.848	1.673	1.70	1.71	1.68	1.68	1.67
インドネシアルピア	(100IDR)	0.830 ~ 0.981	0.881	0.884	0.896	0.879	0.880	0.881
韓国ウォン	(100KRW)	9.749 ~ 10.916	10.585	10.36	10.58	10.66	10.67	10.68
マレーシアリング	(MYR)	31.951 ~ 35.699	33.882	33.96	34.93	34.04	34.54	34.64
フィリピンペソ	(PHP)	2.470 ~ 2.726	2.578	2.60	2.64	2.58	2.59	2.59
シンガポールドル	(SGD)	107.08 ~ 116.09	111.59	111.28	111.03	109.35	108.50	108.29
台湾ドル	(TWD)	4.310 ~ 4.895	4.785	4.75	4.71	4.72	4.72	4.70
タイバーツ	(THB)	4.150 ~ 4.653	4.399	4.35	4.48	4.34	4.36	4.34
ベトナムドン	(100VND)	0.5401 ~ 0.6253	0.5502	0.55	0.56	0.55	0.55	0.55
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.370 ~ 1.876	1.871	1.81	1.78	1.73	1.63	1.53
南アフリカランド	(ZAR)	7.263 ~ 8.525	8.085	8.24	8.39	8.15	7.94	7.75
トルコリラ	(TRY)	3.565 ~ 4.481	3.652	3.67	3.60	3.54	3.40	3.28
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	23.669 ~ 26.888	25.691	24.79	25.17	24.58	24.03	23.50
メキシコペソ	(MXN)	6.845 ~ 7.790	7.489	7.36	7.30	7.18	7.22	7.19

注: 1. 実績の欄は 2025 年 5 月 30 日まで。SPOT は 6 月 6 日の 7 時 00 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。